

【博士課程前期】東アジア比較文化研究プログラム

【アドミッション・ポリシー】

本プログラムは、「福岡」という地の利を生かし、東アジア全域の文化を構成する文学、言語、民俗、宗教、哲学、経済などの諸分野を、比較の視座のもとで幅広く修得させることを目標とする。ここでいう比較は、研究に限定されたcomparisonという意味を超えて、交流や視座の相補性を含むtransactionを意味しており、一定の日本語能力を有し多文化理解に積極的な留学生のみならず、専修分野に対して学部段階で未修得の日本人学生も受け入れ、社会教育・文化交流の振興等を担うことのできる高度専門職業人及び研究者の育成を目指す。

【カリキュラム・ポリシー】

東アジア文化圏に関わる諸地域（アジア全般、中国大陸、台湾、日本など）をフィールドとする文化人類学・民俗学、宗教学、思想・哲学、経済史、社会学、文学、言語学系科目を幅広く設定するほか、既に本学もしくは他大学等で博物館学芸員資格（民俗）や日本語教授資格を取得した学生に関してその実践力を強化する専修分野も設け、演習指導教員の履修指導の下に学部教育と連携した調査・研究を生かしたカリキュラム構成を特色とする。さらに、地域連携や社会貢献を旨として地方自治体や各種企業との協力を図り、各演習の中に地域（社会）連携セミナー等も導入する。

【ディプロマ・ポリシー】

東アジア文化に関する幅広い知識と、比較（交流）の相補的観点に基づいた課題発掘・調査能力を修得させ、各年度に設けられるプログラム担当教員及び履修学生全員参加を原則とする論文・課題検討会を経て、最終的には修士論文として提出させ、修士（学術）を授与する。

研究科	授 業 科 目	単位数	担 当 者	授 業 概 要
人文科学研究科 (日本語日本文学専攻)	日本語学学術演習	8	教授 江口 正	現代日本語研究及び対照言語学的研究を自らの力で進められるようになることを目的とする。音声学・音韻論・形態論・統語論・語彙論・意味論・語用論・言語習得研究などの言語研究の分野の中から自らの専門分野を選ぶことからはじめ、その分野の研究の流れと問題点を整理し、必要なデータを自らの手で集めてオリジナルな研究を構築していく。また、学んだことを日本語教育の調査・研究や実践にも応用していく。
	日本語学学術特講 a	2		言語学の基礎的な研究方法を身につけ、個別言語としての日本語の性質を他言語と対照して明らかにする方法を学ぶ。主として言語構造の諸側面についての講義を行う。
	日本語学学術特講 b	2		言語学の基礎的な研究方法を身につけ、それを日本語教育に生かす方法を学ぶ。言語習得および言語運用の諸側面についての講義を行う。
	日本語学学術特講 c	2		言語学の基礎的な研究方法を身につけ、それを日本語教育に生かす方法を学ぶ。語や文の意味論、および語用論の諸側面についての講義を行う。
	日本語学学術特講 d	2		言語学の基礎的な研究方法を身につけ、それを日本語教育に生かす方法を学ぶ。第1言語習得・第2言語習得と心理言語学・社会言語学の諸側面についての講義を行う。
	比較文学学術演習	8	【担当者未定科目】	
	比較文学学術特講 a	2		
	比較文学学術特講 b	2		
	比較文学学術特講 c	2		
	比較文学学術特講 d	2		
人文科学研究科 (社会・文化論専攻)	日本哲学学術特講	2	准教授 宮野真生子	本講義では、明治維新以降に日本が西洋近代の学問と出会うことで成立した日本哲学を対象とする。具体的には、京都学派と呼ばれる西田幾多郎、田辺元、和辻哲郎、九鬼周造らのテキストを扱っていく。こうした日本哲学を扱う際に重要なのは、彼らがよって立つ西洋哲学の文脈と、日本古来の伝統（仏教・儒学・神道）へのまなざしを理解することである。それによって、近代日本の知の形を明らかにすることが本講義の目的である。
	日本宗教学術特講	2	教授 岸根 敏幸	日本の宗教に関わる重要な諸問題について考察する。具体的には、御霊信仰や伊勢信仰などの代表的な宗教信仰、古代日本における仏教の展開に焦点を当てることになるであろう。これらの考察を通じて、日本人の宗教的な特色について探究してゆきたい。
	日本神話学術特講	2		日本の神話を理解するために、古事記神話について考察する。具体的には、神と世界の関係というものを主題として掲げながら、神観念、多様な世界像など、古事記神話の重要な諸問題を扱うことになるであろう。これらの考察を通じて、日本の神話における世界認識の特色について探究してゆきたい。

(社会・文化論専攻) 人文科学研究科	日本文化論 学術演習	8	教授 植野 健造	担当教員が関連する学問領域は、美学、美術史学、芸術学、博物館学などで、特に日本近代美術史を専門の研究領域としている。この授業では、これらの領域を視野にいれながら、より広くヴィジュアルイメージ（視覚的表象）全般に関わる人間活動の歴史と意義について考察を行う。 そのための基礎能力を身につけるために、有益と蔽われる文献を講読する。
	日本文化論 学術特講	4		担当教員が関連する学問領域は、美学、美術史学、芸術学、博物館学などで、特に日本近代美術史を専門の研究領域としている。この授業では、これらの領域を視野にいれながら、より広くヴィジュアルイメージ（視覚的表象）全般に関わる人間活動の歴史と意義について考察を行う。
	比較文化論 学術演習	8	教授 宮岡真央子	東アジア諸地域の文化をめぐる諸課題について、現地調査に基づく文化人類学・民俗学研究による修士論文を作成するための指導をおこなう。形式は、受講生の報告をもとに議論を重ねるという方法をとる。そのなかで、論文の問題意識と課題の明確化、専門論文の読解方法、調査方法、調査資料の整理方法および論文への活用方法などについて指導する。必要に応じ、参考文献の講読もおこなう。
	比較文化論 学術特講	4		東アジア諸社会の文化をめぐる諸課題の研究に資する文献の講読を主におこなう。受講生の問題意識の明確化と深化、先行研究の整理・把握と自らの研究課題の位置づけと意義の明確化を目指す。また、適宜担当者・受講生による研究発表もおこなう。
経済学研究科	農村社会学学術特講	4	教授 辰己佳寿子	本講義では、「経済」を、カール・ポランニー (Karl Polanyi) のいう、経済的な制度と非経済的な制度に埋め込まれ編みこまれている「人間の経済」という広義の意味で捉え、日本を含むアジアの複雑で動態的な社会経済的現象をどのように分析していくことが可能であるかを追求する。なかでも経済的要素と文化的要素に焦点をあて、さまざまな重層的な社会（個人、家族・親族、組織、国家、国際社会等）の相関を考察していく。まず、経済人類学、社会経済学、社会的行為論や社会システム論を理解し、それらの成果と課題を明確にする。その後、経済文化相関論という新しいアプローチを用いて、アジアの事例分析を行う予定である。
	アジア経済史学術特講	4	准教授 瀬戸林政孝	本講義では、近年、研究上、目覚ましい進展を遂げている近代アジアの経済史について最新の実証研究の成果をもとに講述する。特に、東アジア地域が発展した要因に関して貿易に重点を置きながら講義する。

【概念図】東アジア比較文化研究プログラム

